

### 報告2 キャリアデザイン学部における留学生 チューター制度と国際交流サークルCOMの活 動について

小谷田, 由里子 / 吉川, 由里子 / 蔡, 佼貞

---

(出版者 / Publisher)

法政大学キャリアデザイン学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

生涯学習とキャリアデザイン / 生涯学習とキャリアデザイン

(巻 / Volume)

5

(開始ページ / Start Page)

145

(終了ページ / End Page)

157

(発行年 / Year)

2008-02

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00007527>

〈報告2〉

# キャリアデザイン学部における 留学生チューター制度と 国際交流サークルCOMの活動について

キャリアデザイン学部キャリア・アドバイザー 吉川 由里子  
 キャリアデザイン学部 4年 蔡 俊賢<sup>トシユキ</sup>  
 キャリアデザイン学部 4年 小谷田由里子

## 1. はじめに

キャリアデザイン学部（以降、CD学部と表記）では留学生に対する正式な「チューター制度」を設けています。このチューター制度は、留学生が一方的に支援される形の一般的なものとは異なり、「留学生と一般学生が相互に支援し合い、啓発・成長し合うことが重要」という考えから、国際交流サークル「COM」という学生グループが中心になって制度を運営しています。これはCD学部ならではの制度ではないかと思えます。

しかし、この制度は始めからこのような形式で運営していたのではなく、実際の活動を通して現在の形へ変化してきたものです。その経緯を説明しながら、これまでの活動について報告するとともに、現在の課題を明らかにすることで、今後チューター制度の在り方を考えていく上で、何らかの貢献ができればと考えています。

なお、本報告は、COMの活動について2005～2006年度代表の蔡と副代表の小谷田が、それぞれ留学生・一般学生の立場から寄稿し、CD学部留学生チューター制度と合わせて全体を吉川がとりまとめました<sup>(1)</sup>。

## 2. CD学部留学生対象チューター制度の設置と2004年度の実施概要

### (1) CD学部留学生対象チューター制度の設置の経緯

CD学部は2003年度に設立され、2004年度から留学生の受け入れを始めました。その際、CD学部国際交流委員会<sup>(2)</sup>では、法政大学国際交流センターと連携を取り、新入学留学生に対し、入学時にオリエンテーションやガイダンスを計画し、2003年度に入学した一般学生の2年生による「チューター制度」を設けました。これは、留学生が一日も早く学生生活に慣れ、自らが身につけてきた素晴らしさを存分に発揮し、留学生間だけではなく、一般の学生にもよい影響を与え、相互啓発をしてほしいという願いから設置されたものです。

### (2) 2004年度チューター制度設置時の概要<sup>(3)</sup>

以下、制度発足に向けた確認事項を、箇条書きで示します。

- ・前後期とも、本学部国際交流委員が担当キャリア・アドバイザー（以降、CAと表記）<sup>(4)</sup>と連携を取り、主に新2年次学生から留学生に対するチューター希望者（10名程度）を募る。なお、後期はチューターに新1年生を加えることも検討する。
- ・国際交流委員と担当CAとにより、チューター

希望者に対し、チューターとして行う内容、注意点等の説明を含めたオリエンテーションを行い、チューター担当学生を確定する。

- ・国際交流委員と担当CAおよび留学生とチューターと一緒に意見交換をして、活動内容を協議し、本年度前後期の活動内容案を決める。
- ・学期内に数回、担当CAと留学生、チューターによる全体会を行い、活動内容を確認、適宜修正を行う。このとき国際交流委員も可能な限り同席し、アドバイスをする。
- ・学期末に、活動内容の発表と総括の会を開く。これには関心のある一般学生や教員等が参加し、意見の表明や懇談などを行うことを考えている。どのような形態にするかは、留学生とチューターが中心になって検討して決める。国際交流委員会と担当CAは必要に応じてアドバイスをする。

### (3) 2004年度チューター制での実施企画

上記の考えに従い、以下の企画がCD学部国際交流委員会と担当CAによって立案・実施されました。

#### ①チューター募集

- ・4月10日(土)より掲示にて募集開始
- ・4月21日(水) 12:40~13:10 相談会実施  
参加者25名 チューター希望者15名

#### ②留学生とチューターとの交流会

- ・5月20日(木) 12:35~13:15 第1回交流会  
チューター12名、留学生6名
- ・チューター制度の具体的な内容について留学生を交えて意見を出し合う
- ・チューターと留学生のマッチング

#### ③プロフィール集作成

- ・留学生の紹介(氏名、出身国、個人の携帯電話eメールアドレス、顔写真)
- ・チューター紹介(氏名、担当、個人の携帯電話eメールアドレス、顔写真)
- ・担当教員、CA紹介(氏名、大学のパソコンeメールアドレス、顔写真)

#### ④自由の森学園中・高等学校(埼玉県飯能市)訪

問

- ・6月9日(水) 集合11:55、解散17:00
  - ・多文化教育ワークショップ(担当教員)
  - ・韓国語講座、中国語講座の受講生と意見交換(留学生)
  - ・交通費は埼玉県から支給
- ⑤留学生前期試験相談会
- ・7月9日(金) 12:00~13:30 キャリア情報ルーム
  - ・参加者:15名(留学生5名、チューター6名、教員3名、CA1名)
  - ・経費:20,219円
- ⑥国際交流の集い
- ・11月4日(木) 12:00~13:30 キャリア情報ルーム
  - ・留学生とチューターとの交流会
  - ・前期活動の振り返り、後期の学習情報の交換会
  - ・参加者:13名(留学生4名、チューター6名、教員2名、CA1名)
  - ・経費:16,433円
  - ・チューターと留学生からの提案:交流を深め、文化を知るために鎌倉にて日帰りで交流会をする。学生が主導で企画をし、費用をサポートする。
- ⑦留学生との交流会in鎌倉
- ・11月28日(日) 10:00大学集合、17:00現地解散
  - ・チューターが案内、プログラムを作成
  - ・参加者:9名(留学生5名、チューター3名、教員1名)
  - ・経費:交通費・昼食代
- ⑧食文化交流会
- ・1月26日(水) 13:00~17:00 麹町区民会館調理室
  - ・今年度のチューター制の反省会と来年度に向けての意見交換会
  - ・班に分かれて各国の料理を作る
  - ・試食、感想、食文化交流会
  - ・参加者:11名(留学生5名、チューター3名、教員2名、CA1名)

## キャリアデザイン学部における留学生チューター制度と国際交流サークルCOMの活動について

・経費：22,536円（材料費、飲み物代、会場費）

上記⑧食文化交流会において、次年度の留学生チューター制度について検討しました。2005年度は2004年度のように、一対一のいわゆるチューター制ではなく、できるだけ企画に応じて、学部から賛同者、協力者を募って実施していくというやり方で進めてはどうかと、国際交流委員の教員から提案がありました。話し合いの結果、異論は出ず、どんどん推進しようという方向で意見がまとまり、学生、教員、CA合意の下、次年度以降の方針が決まりました。これがCOMの設立の契機となります。

### 3. 2004年度の課題とCOM設立までの経緯（蔡俊貞）

入学した当時、国際交流委員会の先生とCAの方が中心になって学生の取りまとめをしてくださりました。2004年度が最初の留学生受け入れだったこともあり、新入生本人たちは多くの不安を抱えていましたが、学部から声をかけられることでとても安心することができました。

主な活動は履修やテストに関する相談会とチューターとの一対一の相談や交流でした。履修やテストに関する相談会にはもちろんチューターも参加して積極的に相談にのっていただきました。しかし肝心のチューターとの一対一の交流はなかなかうまくいかなかったのが現状でした。当時のチューター制度は、1人の留学生に対して2人から3人の日本人の先輩方が担当となり、個人単位で日常的に連絡を取り、相談や交流をする形式でした。しかし、自分の担当チューターの顔を覚えることにもままならず、もちろんうまく連絡も取れませんでした。結局、相談をしたい時にもなかなか機会をもてませんでした。当時チューター制度を利用して先輩と交流をしていた学生は私を含め2人にすぎず、他の学生は関わり方に戸惑いをさせていました。

一対一のチューター制度がうまくいかなかった原因として考えられることは、大きく二つありま

す。一つはチューターの担当配分に関する問題、もう一つは交流の拡大に関する問題です。まず、チューターの担当配分に関しては、最初にどのような方法で担当を決めるか話し合い、多くの案が出ましたが、チューターと留学生が一度に集まれる時間がなかったため、満足できる方法には辿り着きませんでした。結局、住まいが近い人を囲み、そのなかで担当を決めましたが、自分のチューターが誰に決まったのか、名前や連絡先だけしかわからないということさえできてしまいました。次に交流の拡大に関しては、同学年の留学生・一般学生との交流を求める声が多数あり、単に留学生を支援する活動だけでは不十分でした。そこで多様な交流の必要性に気づくことができました。

上記の背景からCD学部のチューター制度は、学生中心のサークル形式に可能性を見出し、工夫や試行錯誤を重ねながら現在にいたります。

### 4. COMの活動概要

COMは、学生主体で運営しているCD学部の国際交流サークルです。留学生のみを支援の対象とするのではなく、留学生と一般学生が相互に支援し合い、啓発・成長し合うことが重要だと考えています。これらの考えの下に学部によって組織された学生グループがCOMです。

どの大学にも留学生支援を行う組織は存在し、本学でも国際交流センターが留学生の学校生活を支援しています。CD学部は「生き方・働き方・学び方の設計について考え、自分が育ち、人を育てる能力をつける学部」<sup>(5)</sup>であるため、大学からの支援だけではなく、学生同士が相互扶助・相互学習できる場を作るために、学生が主体となって活動しています。

以下、COMについての概要です。

#### (1) 名前の由来

COMとは、Career Oriental (Original) Membersの頭文字をとり、CD学部の留学生と一般学生メンバーによる、Communicationをとること、Communityとなることを目指しています。

## (2) 活動概要

COMの活動目的は「留学生と一般学生が仲良くなって楽しめる国際交流の場をつくること」、「留学生が日本での学生生活に早くとけこみ学習と研究において一般学生との相乗効果をはかるためサポートすること」などです。

COMでは、一般学生による留学生への日本文化の理解や勉強等のサポートだけではなく、留学生が一般学生対象に語学講座を開講するといったサポートも行うことによって、お互いの理解や、相互学習・相互扶助となることを狙いとしています。

これまでに、留学生による韓国語・中国語講座、勉強に対する不安を減らすための留学生対象の履修相談会・テスト相談会、実際に母国の料理を作り多様な食文化に触れる料理会等を行っています。

## (3) 構成メンバー

CD学部の学生なら、誰でもCOMのメンバーになれます。現在はCD学部留学生全員と国際交流、多文化理解に興味のある一般学生がメンバーとな

っています。メンバーの中で、中心となって活動する学生を「コアメンバー」と呼び、教員・CAと連携をとりながらCOMの活動全体を進めていきます。また、コアメンバーに対してイベントの企画を提案し、そのイベントを担当するメンバーを「企画・運営メンバー」と呼び、企画の承認後は、コアメンバーと連携をとりながら、イベントを実施していきます(下図参照)。

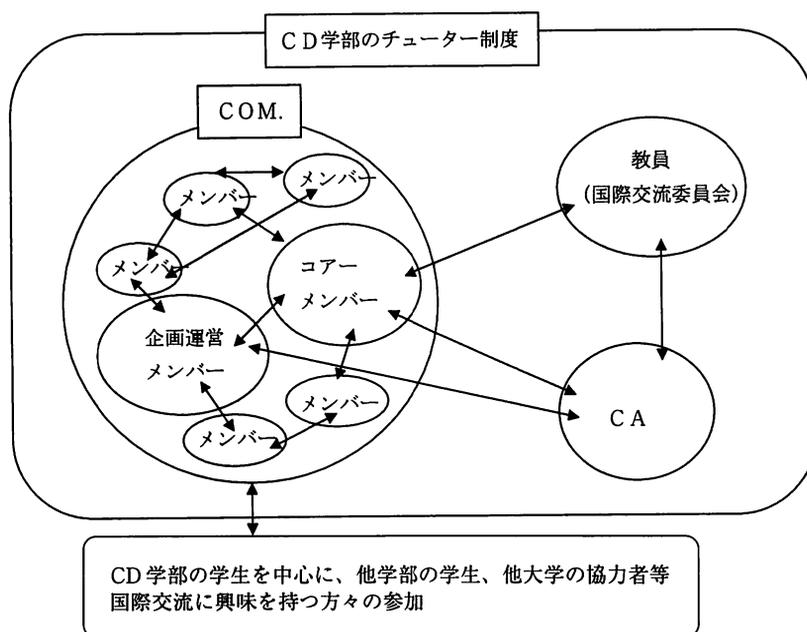
履修相談会やテスト相談会等の参加対象はあらかじめCOMメンバーとなっている学生のみに限られますが、語学講座や料理会等には、CD学部の学生を中心に広く参加を呼びかけています。

## (4) 運営方法

基本的に学部のチューター制度をそのまま引き継いでいますが、チューター制度設置当時とは、二つの点で大きく異なります。

一つ目は、教員・CAが企画を考え学生に参加を呼びかけていた状況から、学生が企画を立て、教員・CAに相談し、話し合いの場で決定し、進めていく方法です。

二つ目は、主に一対一で一般学生が留学生を支



## キャリアデザイン学部における留学生チューター制度と国際交流サークルCOMの活動について

援するという関係だけではなく、一般学生が留学生に対して色々なサポートを行うことと併せて、国際交流による互いの啓発をも目的としています。学生自身がメーリングリストを作成・更新し、メンバー全員が情報を共有することができるようにしています。

## 5. COMの活動歴

### (1) 2005年度発足時

いきなり学生だけで、チューター制度を引き継ぎその責務を負う形でサークル化するのは難しいため、国際交流委員がアドバイスをしながら、学生が準備を進める形を採りました。以下は2005年度の活動内容です。

- ・留学生履修相談会 (CA主導)
  - 日時：4月19日(火) 12:00~13:30
  - 場所：キャリア情報ルーム
  - 内容：新入生留学生の紹介と2年生留学生の紹介  
履修相談等の質問会
  - 参加者：留学生1・2年生、教員、CA
- ・国際交流サークル会員募集 (学生主体)
  - 目的：入学した外国人留学生が、日本での学生生活に早くとけこみ、学習と研究の効果向上を図るという従来の学部のチューター制度に加えて、皆で仲良くなって楽しめる国際交流の場を作ろう。
  - 対象：CD学部の学生で国際交流を楽しもうという意欲のある方  
学部のチューターとして留学生の相談に真剣に応じられる責任感のある方
  - 内容：留学生とともに各国の文化や言語等を教えあい、学びあう。  
ときには皆で遊びに行く。例) お祭り、花火  
学部任命チューターとして、留学生の日常生活や学習に関する助言・協力をする。
  - 募集期間：6月17日(金)~27日(月)

### ※その後も随時受付

- 応募先：サークルの共通アドレス (学生管理)
- ・第1回国際交流サークル意見交換会
  - 日時：6月22日(水)
- ・国際交流サークルメンバー顔合わせ会
  - 日時：6月29日(水)~7月1日(金)

以降、コアメンバーを募り定期的にミーティングが行われました。当時、まだサークル名は決まっておらず、「キャリごく」という仮称で活動していた議事録が残っています。

この議事録の中には、CAの役割が以下のように書かれています。

「CAは監視役ではなく、困ったときのアドバイスをする。MLに加入し学生と情報共有をはかる。予算申請に関する企画書・報告書等、学部の事務的な手続きをサポートする。」

- ・留学生前期試験相談会
  - 日時：7月5日(火)~7日(木)
  - 目的：浴衣を着て日本文化に親しみつつ、靖国神社について考えることで、歴史的問題に向き合う。
- ・靖国神社見学ツアー「みたま祭りに浴衣を着て行きましょう！」
  - 日時：7月13日(土)
- ・中国語講座
  - 日時：7月26日(火)  
9月27日(火)~11月8日(火) 毎週火曜日の昼休み 計6回
- ・キャリア国際交流サークルCOM説明会
  - 日時：10月4日(火)~6日(木) 昼休み
  - 場所：キャリア情報ルーム
- ・ハングル語講座「みんなでハン流!!」
  - 日時：10月20日(木)、27日(木) 12:50~13:20
  - 場所：キャリア情報ルーム
  - 目的：韓国の言葉だけでなく文化にも触れてもらい、留学生が日本人学生からサポートされる側だけでなく、留学生からも日本

人学生に対して、情報を発信する側になって交流を深める。

参加人数：15名（1回目）、10名（2回目）

・異文化交流会「お茶会（留学生との親睦会）」

日時：12月4日（日）13：00～17：00

場所：千代田区 富士見区民館 和室

目的：留学生から後期試験や日常の相談を受けるにあたり、話しやすい関係を作る。

日本・韓国・中国のお茶やお菓子を通して、相互の文化を理解する。

参加人数：10名（留学生3名、一般学生5名、教員2名）

・留学生後期試験相談会

日時：12月20日（火）、21日（水）

・食文化交流会

日時：1月21日（土）15：00～21：00

場所：千代田区 富士見区民館 料理室

目的：食文化を通して各国の文化を考える。

参加人数：16名（留学生5名、一般学生8名、教員2名、CA1名）

経費：27,330円（材料費、飲み物代、会場費）

・留学生情報交換会

日時：2月28日（火）11：00～14：00

場所：ボアソナータワー1204教室

目的：2005年度の活動報告、振り返り

留学生との親睦、生活状況、学生生活におけるニーズ把握

2006年度の活動方針、活動計画作成

参加人数：13名（留学生5名、一般学生4名、教員3名、CA1名）

経費：20,365円（昼食代、文房具等）

## （2）2006年度

2006年度、2007年度については、活動事項について月日順に示すにとどめます。

・4月5日（水）留学生顔合わせ

・4月7日（金）留学生履修相談会

・4月22日（土）23日（日）新入生入門ゼミ合宿へのコアメンバーの参加

・5月～6月 中国語・韓国語講座（韓国語計5

回、中国語計4回）

・5月19日（金）法政大学キャリアデザイン学部連続公開シンポジウム第6回

「留学とキャリアデザイン」にパネリストとして参加<sup>(6)</sup>

・7月3日（月）～5日（水）前期試験相談会

・7月15日（土）ゆかたを着てみたま祭りに行く

・7月27日（木）前期情報交換会

・9月25日（月）～27日（水）留学生後期履修相談会

・10月～12月 中国語・韓国語講座（韓国語計10回、中国語計9回）

・10月15日（日）食文化交流会（中華、韓国料理、和食）

・11月13日（月）健康講座

（タイ式マッサージ）

・11月19日（日）食文化交流会（水餃子）

・12月18日（月）19日（火）後期試験相談会

・1月18日（木）06年度活動報告・07年度活動予定報告会

## （3）2007年度

・4月5日（水）留学生顔合わせ会

・4月6日（木）留学生履修相談会

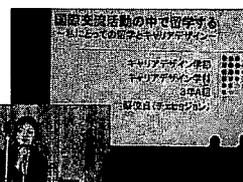
・6月 中国語講座（毎週月曜日）

・6月5日（火）～7日（木）COM総会

・7月3日（火）～5日（木）前期試験相談会

・7月14日（土）ゆかたを着てみたま祭りに行く

・9月26日（水）27日



**(木) 後期履修相談会**

- ・10月30日(火) 31日(水) 留学生進路相談会
  - ・12月19日(水) 20日(木) 後期試験相談会
- (年度末 07年度活動報告・08年度活動予定報告会、4年生を送る会 予定)

**6. 留学生からみたCOMの活動 (蔡俊貞)****(1) よかった、楽しかった、うれしかった点**

COMの活動で最も楽しかったのは、後輩が自信を持って学校生活を送り、発言できるようになったことです。すべての留学生がそうだとは言いませんが、入学当時は日本人との交流においても消極的でなかなか自信をもって日本語で話すことができませんでした。自分も同じ経験をしたからこそ、後輩にはすぐに乗り越えて楽しく日本人学生と交流しながら学校生活を送ってほしいと思っています。そして留学生による語学講座や履修相談会などのイベントの際に、参加するだけでなく、イベントの運営にも入ってもらいました。最初は皆慣れないことばかりで戸惑いもありましたが、時間が経つにつれて著しく成長していきましました。

そしてCOMがここまで成長して活動することができたのはメンバーの皆だけでなく、先生方のおかげです。学生が思う存分、やりたいことをやらせてもらえました。もちろん、失敗もたくさんありましたが、叱るのではなく更なる成長を期待して、ますます関心を持って、評価してくださりました。先生やアドバイザーやメンバーの皆さんに感謝します。COMの活動を通じて私は自分の未熟さを感じると同時に、周りの方々への感謝の気持ちに気づくことができました。

**(2) 難しかった点・工夫した点**

COM立ち上げ当初はサークルの認知度が低く、イベントを開いても人がなかなか集まらない時期がありました。特に学部留学生の理解が完全でない状況で次から次へとイベントを開いたため、留

学生の参加率が低かったのです。留学生の学習支援のための履修相談会やテスト相談会には必要性を感じて、参加者が多くいましたが、その他の異文化体験をするイベント、「お茶会」や「語学講座」には参加者が少なかったのです。留学生の状況は一人一人違うため、それを理解して対応していくことから留学生の支援が始まることに、後から気がつきました。

うまくいかない時には常に「これがチャンスだ」と思い日々試行錯誤を続けました。そして最も工夫したことは、たくさんの方にイベントに来ていただくことです。まず、たくさんの人に話をしました。留学生には求めることについて、もちろん日本人学生や先生の意見も聞き、両者の求めるものをまとめて企画に反映させました。特にこのサークルの第一目的である留学生の支援から、留学生の参加は不可欠なものであるため、一人一人の留学生について知る必要がありました。そして留学生の一人一人がどのような考えで、どのような支援を必要としているのか、そのニーズを知ることが大切だと思いました。そしてまずはその人の置かれている状況を理解するため交流を深める努力を続けました。悩みや勉強の相談などたくさん話をすることで相互理解を深めました。その他にも同種の活動をしている方々に相談をしました。その団体の特徴やノウハウを受け入れつつCOMオリジナルの企画や運営方法を工夫しました。次に勉強会にも参加しました。イベントの企画や運営に慣れていないメンバーがいる時は、一緒にファシリテーションを学びに勉強会に参加しました。またNPO団体の活動にも参加しました。長年の経験と人的ネットワークがあり、資金等の大きなサポートをもらっていて、学生の活動には真似すらできない企画もありましたが、活動に参加して大いに刺激になりました。これらのように自分から次から次へと問題解決のために行動を起こし、もっと有意義な国際交流ができるよう工夫を続けています。

### (3) 今後への課題、期待

COMは勢いよく活動を続けてきましたが、初代の未熟さのため、世代交代の面で、団体として継続性を保ち得るかどうかには困難を抱えていることが一番の反省です。サークルを立ち上げて試行錯誤を重ね活動中、体制を整えて成長することはできましたが、もっと先のことまでには手が届きませんでした。

しかし、この反省から一つ得たことがあります。COMは留学生が中心となって自分達が必要とする交流を自力で起こす体制を持つことで、手段や内容は次々と変わっていきますが、留学生支援と国際交流といったメインの目的は果たすことができます。前の代で行ってきたことが正解だというわけではないのです。あくまでも試行錯誤の一部にすぎません。これからCD学部に入學する学生たちがその時々、求める・求められる内容でCOMをデザインしていけばよいと思います。その時に彼らの目には今までの自分たちの活動がどう映るかはわかりませんが、参考にしてさらに楽しい、効果的な活動ができることを期待しています。

### (4) 所感

一人の留学生としてCOMの活動を思い返してみると、自分自身の成長を促した大きな経験であったと言えます。それは色々な観点からとらえることができます。まず、「一人の留学生」として、そして「一人の学ぶ学生」として、たくさんの気づきや学び、成長がありました。これから自分がCOMに辿り着いた背景、そして上記の二つの観点に基づいて自分がCOMから得たことについて述べたいと思います。

大学に入學してCOMの活動に参加する前まで日本にいて日本人と触れ合っている状況に対して当たり前環境だと思っていました。しかし東京韓国学校の友人からの話で自分の環境に関する考え方が一変しました。その友達は小学校から日本育ちで、東京韓国学校高等部を卒業しました。そして彼女は家族や学校の友達とも日本語で会話をしながら日本という環境で生活をしていました。

しかし卒業を迎えて帰国することになった彼女は、今まで日本で暮らしていたにも関わらず日本人との交流はまったく無かったことに気がつきました。そして日本で生活はしていたけれど本当の日本を知る機会をたくさん逃していたと私に告白し、「日本の大学で学ぶという恵まれた環境にいるから、日本の人と積極的に交流して付き合いなさい」とアドバイスをくれました。その時、自分がいる環境を当たり前にしてしまえば無意味なことになってしまうことに気がつきました。またそれは日本にいながらも、韓国にいて日本の学問を学ぶことと変わらないと思いました。このようにして私はCOMの活動に辿り着きました。

では、COMの活動から得た「一人の留学生」としての学びについて述べます。留学生の中には留学生同士で固まってしまう傾向がよく見られます。しかしせっかく異文化体験のできる環境を手に行っているにも関わらず、それを見ようとしないうちはとてももったいないことです。それでは外国に来て知識を学ぶ意味がなく、自分の国で他国の言葉で知識を学ぶのと違いはないと思います。つまり「学」にすぎない、「留」は形だけになってしまいます。この思いを基にして、COMの活動を続けました。最初は留学生の支援をするのがメインのサークルでした。しかし次第に交流するうちに、せっかく留学生と触れるのだから日本人にもそのチャンスを利用して何か得ることがあると思うようになりました。そして日本にいながらでも、留学生と交流する中で、間接的な留学の体験をすることのできる場をたくさん設けました。このように、日本人に対して留学生が交流を呼びかける過程が、もはや支援される側ではないことを留学生に自覚させ、留学生の一人一人が自信をもって日本語で話をして留学生活を送ることができるよう支援してきました。そして私はCOMの活動から日本に対する理解や日本で学ぶ自分自身を真正面から見つめる大切な時間を持つことができました。

最後に「一人の学ぶ学生」としてCOMの活動から成長できたことについて述べます。大きく二

つあげるとリーダーシップと異文化交流の大切さがあります。まず、リーダーシップはコミュニケーション能力や自律的考えに繋がると思います。他人の大切な時間を預かり何かをするということでも当然感謝の気持ちも忘れません。その時間を有意義にするために工夫をするなかで人と接するコミュニケーションを養い、方針に沿って企画を立て運営していきながらバランスを保つための自律的な考え方を養うことができました。これらは今後自分が社会人になる上でとても役に立つと思います。次に異文化交流の大切さについては、国の違いだけでなく育った環境の違う人々が集まり、個々人の多様性を感じながら交流することを通じて、多様性を受け入れて相手を理解する力がつき、自分の留学生活においてもさらに成長することができました。またこれからのグローバル社会に対して周りの多様性を理解することを学ぶことができました。COMの活動は自分にとって誇りであり、これからの社会生活の中でも、今までの経験を生かしてさらに成長したいと思います。

このように、COMの活動を通じて自分の日本留学を有意義に過ごしてきたおかげでたくさんの気づきがあり、成長することができました。卒業後は一人の社会人として、また日本で成長する道を選びました。その理由は、大学生活ではまだ知ることのできなかつた日本についてもっと知り、国際社会に貢献できる人間として成長したいという強い願望からです。COMの活動から学んだ多くのことは、今後自分が社会人として成長していく中でも大切な経験の一つです。

## 7. 一般学生からみたCOMの活動

(小谷田由里子)

### (1) 反省

これまでの活動を振り返ると、多くの企画を行うことができましたが、反省点も多くあります。参加者が集まらない、企画担当者が決まらないといった悩みもありました。「イベントには気軽に参加してもらいたい、企画はコアメンバーでなくとも担当してもらいたい」といったこちらの意図

がなかなか伝わらないことに、いつも難しさを感じていました。

まず参加者が集まらないことに関しては、COMで行う企画には留学生はもちろん一般学生にも多く参加してもらいたいと思い、企画を立て学部掲示板にポスターを張り出し、メーリングリストを活用し連絡を回していましたが、実際蓋を開けてみると参加する人は「いつもの」メンバーになりがちで、留学生の中でも参加する人と参加しない人とにわかれていました。また学生が行っている活動ということで、こちらから強制的に参加を促すことが難しく、出席の連絡をもらっていても当日欠席となる人もいました。参加者が大人数になることを想定していたにも関わらず、連絡が直前になってしまい、すでにメンバーに予定がはいってしまっていたというこちら側の反省もあります。

宣伝に関しては、先生方にアポイントメントをとり、1年生の必修授業を回り、チラシの配布を複数回行ってきました。そこから、COMの存在や活動内容については学部生には認知されていると思いますが、新たにメンバーに加わるという学生は非常に少なかったのです。ここから私たちは、1年生や2年生は知らない人たちの団体には参加しにくいのだと考え、既存のメンバーに対して「友達も連れてきてね」と口コミないしは「友達の輪で広げていこう」ということになりました。

また、私たちは当初COMのイベントや行事はコアメンバーが全ての企画を担当するのではなく、COMのメンバーから企画担当者を選出し、コアメンバーは各企画の管理や先生方やキャリアアドバイザーとの連絡役となることを考えていましたが、こちらに関しては私たちからメンバーへの伝達不足ということもあり、自ら企画を担ってくれるメンバーが現れず、直前にコアメンバーが担当するという事態が続きました。このことに関しては、「企画を担当することは、楽しさややりがいがあり、それほど難しいことではない」というメッセージをもっと発信してもよかつたのかと考えます。

## (2) チューター形式からサークルになったメリット、デメリット

まず、メリットとしては①イベントに留学生も一般学生も気軽に参加しやすいこと②楽しい空間を共有できること③日常の付き合いの中でも支援が行えること④学生が主体となることで企画を担ったりサポーターとなったりとチャレンジする機会が得られること⑤相互学習ができること⑥相談された人がわからないことでもさらに周りの人を巻き込んで解決ができることといったことが挙げられます。一対一のチューター制ではないからこそ、問題を共有することができたこともありました。

①と②に関しては学生がイベントを主催していることで、敷居は低くなったかと考えます。イベントによっては事前に出欠をとるものもありましたが、語学講座やテスト相談会といった企画には「いつでも参加してください」と伝えていました。ただ、このことは逆に「参加してもなくても平気」ということにもなり、裏目にでたこともありましたが。③についてはコアメンバーで留学生サポートを考えたときに、「留学生にとって相談会といった場があったとしても、知らない人には進んで相談しないであろう」と話し合ったことから、日頃会ったときに話しかけ、会話をする中で「学校でのちょっとしたこと」ならすぐに相談できる関係を作ることを目標としました。COMの企画を通じて留学生同士、または先輩後輩のつながりができたことで、日頃から情報交換等の助けあいにつながったと考えます。④については、学生の成長につながるチャンスなのですが、その点はまだ理解されていないことが残念です。⑤に関してはサークル形式となり、サポートする側とサポートされる側が区別されないことで、言葉をはじめ互いに持っている違うものを教えあうことができました。⑥についてはサークルの利点を活かしている点だと考えます。相談された学生がわからないことでもメーリングリストに質問を投げかけることで、複数の学生から回答が得られたことがしばしばありました。

また、デメリットとしては①責任の所在がはっ

きりしないこと②全ての留学生をフォローしきれなかったこと③参加者からコアメンバー等への移行が難しいこと④またコアメンバーの引継ぎやメンバーの入れ替わりへの対処が難しいこと⑤留学生の参加意識にばらつきが生じてしまうことといったものが挙げられると考えます。

①と②に関しては、組織としては代表や副代表だけでなく、メーリングリストの担当といったコアメンバーの中でも役割分担、企画ごとの責任者をはっきりさせることで解決できると思います。しかし、一対一のチューター制の時には留学生ごとに担当の一般学生が決まっていたのですが、サークルに移行してからは留学生ごとの担当を決めることはしませんでした。そのためチューターが必要な留学生に、対応できたのかと反省が残ります。この点に関してはコアメンバーだけでなく教員やアドバイザーによる留学生との個々の面談が実施できればよいと考えます。③に関しては、これまでコアメンバーがどういった役割を担うのか、また留学生からのコアメンバーだけでなく、一般学生からのコアメンバーも必要であることを、明文化をしてこなかったという反省があります。④に関しては、一般的なサークルにも共通する悩みだと思います。⑤は一対一のチューター制の時でもそうであったと思いますが、留学生にもそれぞれに都合で行事に参加できない場合もあり、また学校行事に対しての興味の持ち方もさまざまです。こちらがいくらCOMに積極的に参加してもらいたいと思っても、受けとめ方は留学生それぞれです。多くの留学生に積極的に参加してもらえよう、これからはCOMでの活動の意義や必要性をもっと伝えていければと思います。

## (3) 今後への課題、期待

まずは「楽しそう」から始まってたくさんの学生に参加してもらいたいと思います。COMの宣伝活動を学生向けに数多く行ってきましたが、関心を持たない学生や興味を持って、知らない人たちの活動に参加するのを踏みとどまってしまう学生とも、数多く出会ってきました。はじめは参

加し国際交流の楽しさを理解してもらい、その次にはCOMの中で役割を担ってもらいたいです。「大変そう」と思わないで企画を担い、中心的メンバーとなり他人に働きかけることで多くの学生に自己効力感も得てもらいたいと思います。

COMの活動では、留学生だけでも一般学生だけでも相互扶助・相互学習という目標は達成できません。国籍や年齢、学年、これまでのキャリアに関係なく、むしろ多様性から生まれる個性を發揮し互いに助け合い、教え合うことで国際交流の面白みだけではなく「支援する・される」喜びをCOMの活動をとおして経験してもらいたいと思います。

#### (4) 所感

##### ①COMの活動を通じていかに自分を高め学部に貢献してきたか

COMの活動を通じて副代表としての責任もあり積極的に行動ができたと思います。一般学生である私がCOMの活動を行うことで、学生の自主活動は誰でも行えるものであるということと、主体的に活動することで多くのものを得られることができるということを伝えられればと思います。そういった意味ではCOM以外の場でも多くの学生に主体的に活動を行う経験をしてもらいたいと思います。私は国際交流活動を大学に入る前に経験したことがない学生でした。留学生の蔡さんと親しくしていたことや、中国や韓国など海外に憧れを持っていたことからCOMの活動に関わるようになり、国際交流も経験でき、異文化に触れることにもなりました。それだけではなく責任を負って活動することで、自らの成長となることへのモデルにもなれたのではないかと思います。

活動の中で私はたくさんの失敗もし、わからないこともたくさんありました。その度に学習していく習慣も自然と身につけていたのだと思います。振り返ると活動を始めた頃はミーティングを行っても合意形成にいたらず、それをどう改善するか取り組んだこともありました。イベントのプログラムデザインの仕方も知りませんでした。そ

の折、ファシリテーションの勉強会の案内を学部生からいただき、参加するようになりました。「COMの活動をよりよいものにする」という意識から勉強会に意欲的に取り組むようになり、COMの中で実践していくようになりました。

##### ②自分自身の成長

3年近くのCOMの活動を振り返って思うことは、留学生支援を目的に活動してきたはずが自分自身にとって得るものも多く成長させられたということです。この活動を通して私は自分に対して、もちろんCOMに対しても、自信を持てるようになりました。それは大学入学当初に多様な人々と出会う中で、平凡に生活してきた私には、他者に対して何かできる技能や知識といったものは持っていないと心のどこかで感じていたことが、COMの活動の中で「場を作ること」であれば私にもできるのだと実感できたからです。言語が日本語しか話せなくても2言語、3言語話せる人に教えてもらえばよいということや、日本文化について理解が浅くても経験豊富な社会人の方から教わればよいということ、今できないこともその都度学んでいけばいいのだということ、そのために場をコーディネートし、人と人を繋ぐことで私の役割が成り立つことがわかりました。また「場を作ること」で参加した方が楽しんでくれている様子や感謝の言葉をいただけたことは、私にとってこの上なく嬉しいものでした。人と人を繋ぐことの楽しさを実感すると同時に協力してくれた周りの人々への感謝の気持ちも私にとって忘れることはないものです。私たちコアメンバーが活動を進めてきたようでもCOMの活動の中で私は多くの方々に助けられてきました。客観的なアドバイスをくださったキャリア・アドバイザーの皆さん、COMのイベントの企画担当者となってくれた学部生、いつもCOMの活動に関心を寄せてくださった社会人学生の方々、時には協力してイベントや宣伝活動を行った他団体といった多くの人たちとの関わりの中でCOMは支えられてきました。そうした時に自分で意思表示することで、得

られる情報が増えるという経験もしました。周りの人に意見や助けを求めることができるようになったことや自分の意見を伝えられるようになったことも私にとって大きな変化だったと思います。何でも自分でがんばらなくてはいけないという考えに縛られがちな私でしたが、全てを自分ひとりで行わなくてもよいのだということがわかりました。頼ることの大切さや頼られることの嬉しさに気づくことができました。いつからかアサーションということも気にするようになっていました。

このようにCOMの活動を通じて私は国際交流を経験できただけなく、コミュニケーションをとる姿勢や学ぶ姿勢を形成してこれたのかと思います。

## 8. キャリア・アドバイザーの役割、関わり方

以上のように、COMの活動は留学生・一般学生に有意義な経験をもたらす場になっている一方で、その運営には難しい点も多いことがわかります。

ここでは、キャリア・アドバイザーが、CD学部留学生チューター制度としてどのようにCOMの活動・運営を支援してきたのかを具体的に説明します。

2004年度チューター制度設置時は、教員・CAが企画を考え学生に呼びかけていましたが、2005年9月以降は、学生が企画を立て、教員・CAに相談し、話し合いの場で決定し、進めていく方法をとるようになりました。

具体的なCAの関わり方としては以下のものが挙げられます。

- ・コアメンバーや企画担当者から相談を受ける
- ・企画書、報告書作成のアドバイスをする (COM用)
- ・学部に対して企画書、報告書を作成する (チューター制度用)
- ・予算を使用するため学部に連絡をする
- ・当日の企画へ参加し様子を把握する
- ・一対一の関わりが必要な学生へのフォローをする

- ・学生の対応について教員、学部事務課と連携をはかる
- ・日々学生と接する中で学生の声を聞き支援する

2007年度に初めて実施された「留学生進路相談会」については、コアメンバーや企画担当者ではない留学生が、自分自身の就職活動の不安から、先輩の話を知りたいが日常生活の中では会うことがないので困っているということを経験の中から知り、そのことを企画立案することを勧めたところ、COMの新イベントとなりました。日々学生と接することをはじめ、上記のような関わり方をすることで、うまく学生をフォローし、活動を活性化できた例だと思っています。

この例のように、自主性を発揮し始めた学生については、活動のフォローが中心となりますが、世代交代直後など、まだ学生が自主性を発揮できない状況にある場合などは、学生の自主性を尊重しつつ、学部のチューター制度としての役割を担ってもらうために、どのように対応をすればいいのか、試行錯誤の状態です。

自主性を発揮できる環境というのは、画一的なものではなく、世代や参加メンバーによって異なるという難しさがあります。特に、学生の自主性がチューター制度としての活動とうまくマッチングするように方向づける必要があるために、単なる自主性の尊重だけではない側面もあり、他の学生支援とは違った難しさがあります。そのため、毎年その環境をどのように整えるかということについて、学生、教員、CAをはじめ、皆で考えていかなければならない必要性を感じています。

## 9. おわりに

このように、CD学部特有の留学生チューター制度は非常に有効であると思いますが、その活動の活性化のためには、「双方向性」と「当事者性」を大切にしつつ、学生の自主性はもちろん、教員とCAが連携して、積極的に環境を作っていくことが重要だと思っています。

双方向性とは、一般学生が留学生を支援すると

いう一方的な関係ではなく、留学生からも自国の文化紹介やことばを教える等、情報を発信し、そこから一般学生も多くのことを学んでいます。また、たとえ一見一方的に支援しているように見えても、実は多くのことをその経験から学び、影響を受けています。このことは、蔡と小谷田の言葉からもよくわかります。

そして当事者性とは、学生が主体的に活動し、留学生自身が活躍できる場であるということです。先輩留学生在が後輩留学生在の履修相談やテスト相談、進路相談にのることが挙げられます。また、食文化交流会や中国語・韓国語講座については、当時の留学生自身が一緒に料理を作って交流がしたい、自国の言葉に興味のある学生に教えたいという自発的な思いから企画・実施しました。

このことは、CD学部が目指している自律的相互学習と同じことです。CD学部では生涯学習社会における「学び」の能力を養成しています。2008年度学部案内によると、CD学部が育てようとする人材とは、社会の急激な変化に対応しながら、自ら学び、考え、行動できる自立／自律的な人間、そしてそういう自立／自律的な生き方をしたいという人たちを支援できる人間です。ここで身につけた力は、職業的に他者の支援を行うような、人材・教育分野で働くときだけでなく、企業や地域社会などで他者と関わりながら活動するときにも基本的な力として生きてくるはずで

以上のことをCD学部留学生チューター制度が目指しているわけですが、当事者である学生達には、そのことはあまり意識しすぎず、楽しく活動して欲しいと思います。自分達が必要としていること、やってみたいが一人ではできないと思っていることを、助けを借りながらできるようになり、今度は一人でもできるようになり、次には助ける側になれるようになって欲しいと願っています。

---

#### 注

(1) 各節の名前のある箇所は、それぞれ、蔡、小

谷田が文章を作成し、それ以外は学部や学生の資料等を基に、吉川がとりまとめました。

(2) キャリアデザイン学部開設時から教員によって組織されている委員会のうちの1つ

(3) キャリアデザイン学部「留学生対象チューター制度設置について」より抜粋

(4) キャリアデザイン学部のキャリア・アドバイザーは、キャリアデザイン学部生の学習と学生生活を支援するための専門職員（学部に所属する任期制の嘱託職員）です。主に次のようなことを行っています。

①キャリアデザイン学部生の学習・進路・大学生活等に関するさまざまな相談にのります。

②学習・進路を支援するセミナー・ワークショップを開催しています。

③レポートの書き方等のサポートを行います。

④その他、学部生の自主活動等のサポートを行います。

(キャリアニュース編集部(2007)『キャリアニュース第27号』法政大学キャリアデザイン学部より抜粋)

(5) 法政大学キャリアデザイン学部ホームページ  
<http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/index.html>  
 より抜粋

(6) 法政大学キャリアデザイン学部連続公開シンポジウム第6回「留学とキャリアデザイン」『生涯学習とキャリアデザインVol.4』p.179～p.273参照

#### 参考文献

1. 島影義和他(2006)「〈報告〉法政大学におけるキャリア・アドバイザーの取り組みと活動について」『生涯学習とキャリアデザインVol.4』p.169～p.178
2. 小玉小百合(2007)「正課外のキャリア支援：学生参画によるキャリア支援の実践」『大学のキャリア支援』p.124～p.151  
 上西充子編著 経営書院